

2018年10月

第97号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

災害は忘れないうちにやって来る

9月上旬、ニッポン列島は何かに呪われたかのように立て続けに大災害に見舞われた。

一つ目は9月4日12時ころ室戸岬から徳島県南部に上陸した台風21号。

この台風21号、関西空港付近では最大瞬間風速58.1m(観測史上最大)、また、大阪市では最高潮位329cmを記録し近畿地方を中心に大きな被害をもたらした。死者13人、負傷者912人、住宅の全壊9棟、半壊46棟、一部損壊21920棟などの他、関西電力では大阪府・和歌山県・兵庫県などを中心に延224万7千戸が停電した。車が風のため横転し転がる様子や屋根や看板が吹き飛ばされる模様がテレビで放映された。

関西空港では防潮堤を乗り越えた高潮によって滑走路・1階到着ロビー・地下機械室・電気施設が水没、ターミナル全体が停電した。さらに、タンカーが強風にあおられて空港連絡橋に衝突、自動車道・鉄道など通行止めとなり利用客3000人・職員2000人が空港で一晩を明かした。

二つ目、台風被害で列島が騒然としている中、9月6日には北海道南西部を震源地とするマグニチュード6.7、最大震度7を記録する大地震が発生し、気象庁は「平成30年北海道胆振東部地震」と命名した。今回の地震は上下方向に断層がずれる「逆断層型」で国内に広く見られるタイプの地震だ。

被害状況は死者41人、負傷者681人、住宅の全壊139棟、半壊242棟、一部損壊1773棟などとなっており、震源地に近い厚真町を中心に大規模な崖崩れが広範囲で発生し被害を拡大させた。また、札幌市内では液状化現象による道路の陥没・隆起や住宅の損壊などの被害を受けた。

さらに、1951年の北海道電力創設以来初の道内全域で295万戸が停電した。これは、苫東厚真火力発電所のボイラーが破損し道北地方で停電が発生、北海道・本州間連系設備の送電もストップ、電力会社では電力の周波数を安定させるため、需要と供給が一致するよう発電能力を調整しているが、これが自動的停電の連鎖を引き起こす「ブラックアウト」に至った。

停電のため千歳空港が閉鎖となり大勢の観光客が足止めとなり、医療機関でも通常治療に支障をきたし、酪農では搾乳ができず乳牛の乳房炎が多発するなどの被害が出ている。

今回の災害では関西空港・千歳空港で多くの外国人観光客も災難に巻き込まれ情報提供の不備が指摘された。言葉の通じない外国人旅行者に対する正確な情報提供は最大の「おもてなし」というべきだろう。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われているが最近は忘れないうちにどんどんやってくる、日頃から油断することなくしっかりとした備えをしておきたい。



ベテランかプロか

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

ベテランとプロのちがい

「あの人はベテランだ」という言葉をよく聞く。一般にベテランとは、社歴が古く、長い間、会社にいる人、そして仕事に慣れている人をいうが、わるい表現をすれば慣れすぎていて仕事の手抜きも上手な人ということかもしれない。

わたしは、ビジネスマンはベテランではなくてプロになるべきだと思っている。プロとはどういう人かという、いつも新しい顧客を呼ぶ人、呼べる人ではないか。

調整力で生きるのではなく行動力と攻撃力で生きる人、挑戦心に燃え構想に基づき独創で生きる人間ではないかと思う。もちろん、そこにはリスクも伴う。しかし、機会はふんだんにあるのではないだろうか。

そんな生き方をする人がプロだろう。

ベテランといわれる人は、次のような反省をしてほしい。

自分が喜ぶことをやり、自分のプラスになることを考えていないか。人が喜ぶこと、社会にとって正しいか会社にとって正しいかという感覚が弱くなってきていないか。

チャレンジ力やスピード力が鈍り、壁を意識して現状打破できなくなってしまう〈悪しきベテラン〉になってはいないかと。

いいベテランであってプロであることが一番望ましいが、なかなかむずかしいようだ。

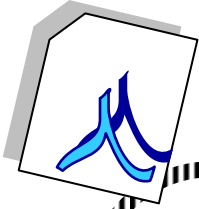
だが、ベテランであって、つねに新鮮な考え方をもち、前向きであることを心がける人は、知らず知らずプロに近づく。

企業経営は、人間個人のもっているキャラクターに彩られることが多いように思う。だから企業人の自覚が強い人ほどやらねばならないことが多いのではないだろうか。

企業を取り巻く環境はきびしい。

しかし、会社のためというより、お客様や社会にとって何が正しいか、お客様や社会が何を望んでいるか、何を期待し何を喜ぶのかを考える事業が成功するのだとわたしは思っている。そこにこそ、これからのビジネスの存在があり、成長の芽があるのではないか。

(「人を惹きつける経営」より)



ジェームズ・クック (イギリス海軍士官、海洋探検家)

- 1728年10月27日 スコットランド人の父とマートン生まれの母の下に生まれた。5人兄弟。
13歳で父の勤める農場で働く。
- 1746年 石炭運搬船団の見習い船員となる。代数学・三角測量法・航海術・天文学などを学んだ。
- 1755年 英国海軍水兵として志願入隊。まもなく、准士官の航海士に昇進。
- 1757年 29歳で航海長の任用試験に合格。
- 1760年 カナダ東海岸にあるニューファンドランド島の海域調査を5年に亘って行い、正確な地図が初めて作成された。英国海軍と英国王立協会から注目される。
- 1766年 王立協会により金星の日面通過の観測のため南太平洋に派遣される。英国海軍航海長(士官待遇)。
38歳英国軍艦エンデバー号の指揮官となる。
- 1769年 天体観測目的地であるタヒチに到着。(第1回航海)
- 1770年4月 ヨーロッパ人として初めてオーストラリアに到着。
- 1770年8月22日 ポゼッション島上陸、オーストラリア東岸の英国領有を宣言。
- 1773年1月17日 探検隊長としてヨーロッパ人で初めて南極圏に突入。(第2回航海)トンガ・イースター島などに上陸。
- 1778年 ヨーロッパ人最初のハワイ諸島へ。カウアイ島に上陸。
- 1779年2月14日 先住民とのトラブルに巻き込まれ殺害された。享年50歳。
ニュージーランドで発行された紙幣の肖像となっている。

オススメの BOOK



『巨悪』

著者 伊兼 源太郎 講談社

本書は、政治家や官僚の汚職、大型経済事件を専門に取り扱う「検察庁が誇る精鋭部隊」東京地検特捜部の物語。

大手運送会社社長の脱税疑惑、ベテラン議員が夏祭りで手ぬぐいを配った公職選挙法に触れる立件が困難を極め、大阪地検特捜部の不手際もあって、事件解明がますます泥沼化して行く。それでも若い検察官が正義の戦いとして「巨悪」に挑む。相手側には元公安に所属していた人物も見え隠れする。

安全運転で ” 秋 ” を楽しみましょう



秋以降（10月～12月）の交通死亡事故が4割になるというデータがあります。

秋以降の交通死亡事故の特徴としては、

○発生時間帯 16時から18時に集中

○事故類型 横断歩行者と車の事故が多発

運転は危険な業務であり、常に高度な注意義務が求められます。そのため、交通規則を守るとともに、危険を予測しながら運転をしなければなりません。万が一、他人にケガをさせたり、死亡させたりした場合、運転者には重い責任を問われることとなります。

1、交通事故を起こした人の責任

○刑事上の責任

- ・懲役刑
- ・禁固刑
- ・罰金刑

○行政上の責任

- ・運転免許の取消
- ・運転免許の停止

○民事上の責任

- ・損害賠償

2、交通事故当事者を襲う被害

- ・医療費、修理費用等経済的重圧
- ・活力を奪う精神的ショック
- ・信用失墮
- ・消すことのできない被害者の心情
- ・家族関係の悪化

・勤務先への大迷惑（場合によっては免職）

それでは交通事故は何が原因で発生しているのでしょうか。

- 1、認知ミス…発見の遅れ、見落としなど
- 2、判断ミス…読み違え、判断の甘さなど
- 3、操作ミス…ペダルの踏み間違いなど
- 4、その他 …病気によるものなど

交通事故は、前をよく見ていなかったことなどによる「発見の遅れ」「見落とし」などの認知ミスによるものが約7割を占めています。適度な緊張感を持って、前をよく見て運転に集中すれば多くの交通事故は防げます。

それから、絶対行ってはいけないのは飲酒運転です。世論の厳しさや罰則の強化により減少傾向にあるにもかかわらず依然として悲惨な事故が後を絶ちません。「少ししか飲んでいないから。酔っていないから。少しの距離だから。いつもの道だから。自分は事故を起こさない。」等々、飲酒運転をした人は自分なりの勝手な理屈をつけています。しかし、その安易な気持ちで行った飲酒運転の代償は大きく、取り返しのつかない悲惨な結果に繋がっています。

秋は芋煮会や旅行、行楽のシーズンです。くれぐれも事故にあわないよう、起こさないよう気をつけましょう。



【編集後記】

大坂なおみ選手(20才)がテニスの四大大会の一つ「全米オープン」女子シングルス決勝で元世界ランキング1位のセリーナ・ウィリアムズを破り日本人として初制覇を果たした。おめでとう!!

大坂選手は試合終了後のインタビューで観衆を気遣い、相手セリーナに対して「あなたと試合できるのは私の幼い時からの夢だった。試合をしていただいてありがとうございます」と感謝の言葉を述べた。この心遣いに大勢の観衆から割れんばかりの拍手が鳴り響いた。

大坂選手の温かい気配りが観衆を圧倒した瞬間だった。